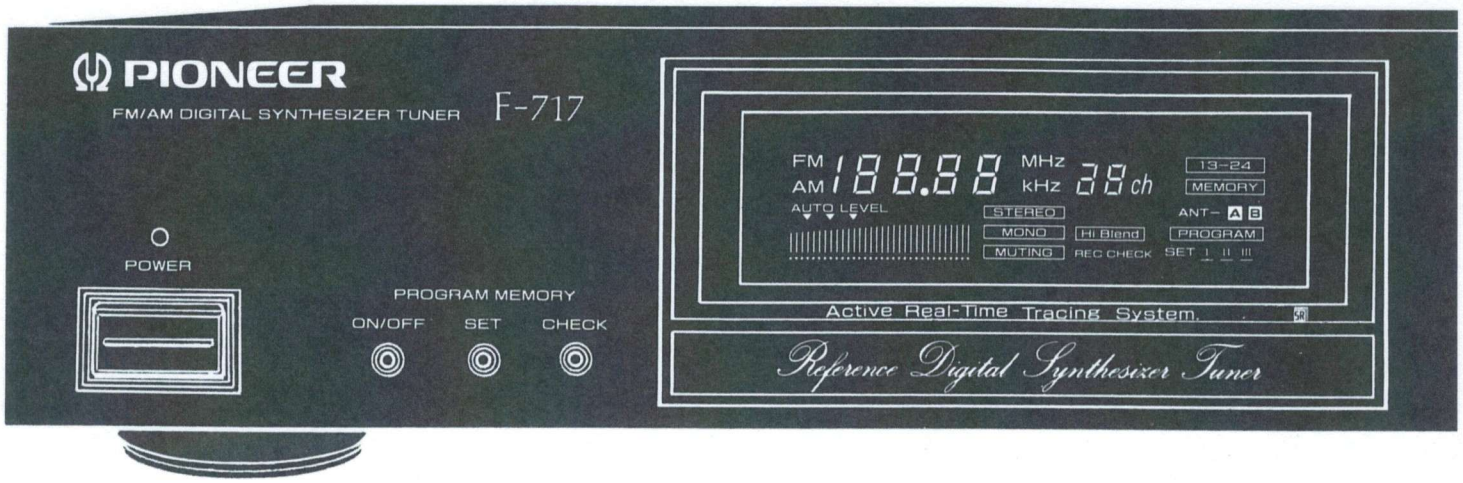
取扱説明書

F-717

Reference Digital Synthesizer Tuner

FM/AM DIGITAL SYNTHESIZER TUNER



PIONEER®

音と光の未来をひらく

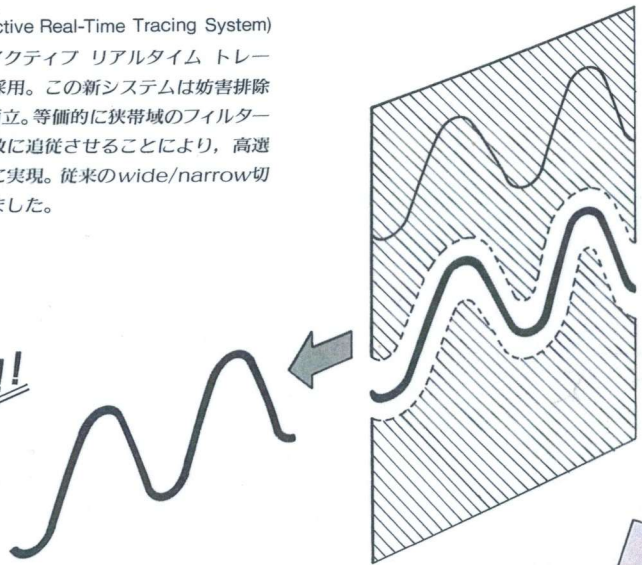
FM多局化時代への回答

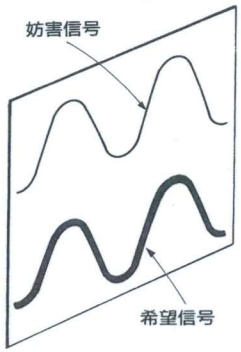
級チューナーに要求されてきたもの

のチューナーは，ワイド(歪率・SN比良好)とナロー(選択度良好)のフィルターを電波の状
むじて切り換えて使用する方式をとっていたため，チューナーに必要な2つの基本
「音質」と「感度」を同時に満足させることは困難でした。今日，FM多局
セを迎え，この方式のもつ弊害があらためて顕著になってき
た。「音質」と「感度，選択度」を同時に向上させる新
この開発がチューナーに求められる大
課題でした。

A.R.T.S. (Active Real-Time Tracing System)

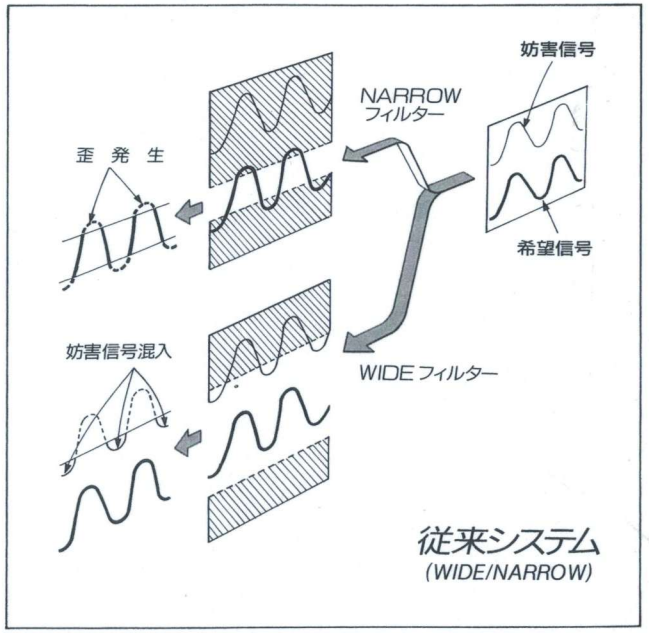
■F-717はA.R.T.S.(アクティフ リアルタイム トレーシング システム)を採用。この新システムは妨害排除能力とHi-Fi性能を両立。等価的に狭帯域のフィルターをFM波の瞬時周波数に追従させることにより，高選択度と低歪率を同時に実現。従来のwide/narrow切換回路は不要になりました。





歪率
〈T.H.D.〉1kHz
mono……0.005%
stereo……0.008%

〈選択度〉
300kHz……60dB



FRONT END BLOCK

高感度性能

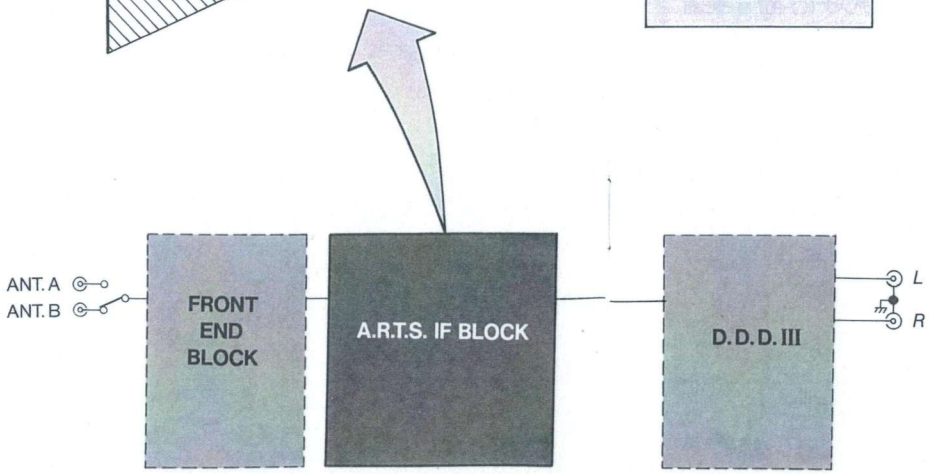
■同調素子として，高性能ツインバリキャップと，独自のバランスホールドコンデンサー方式を採用。

高受信安定度

■バランスドミキサーにより周波数変換部を構成。

高SN比・低雑音・低歪率

■増幅素子に当社製ID MOS FETを使用し，さらにコイルドライブ形トラッキングオシレーター回路を搭載。



構造上の特長

- 振動減衰特性のすぐれたハニカムシャーシを採用。
- 振動に対して非常に敏感なローカルブロック類をモジュール化し，樹脂を充填することにより，個々のパーツの振動をカット。
- 大型インシュレーター。

機能上の特長

- 2方向の電波を確実にキャッチするために，FMアンテナA・B2つの入力端子を装備。
- FM・AM合計24局までプリセット可能。
- タイマーセットした時刻に合わせ，3つまで放送局を変えて留守録できる，便利なプログラムメモリー機能。

D.D.D. III

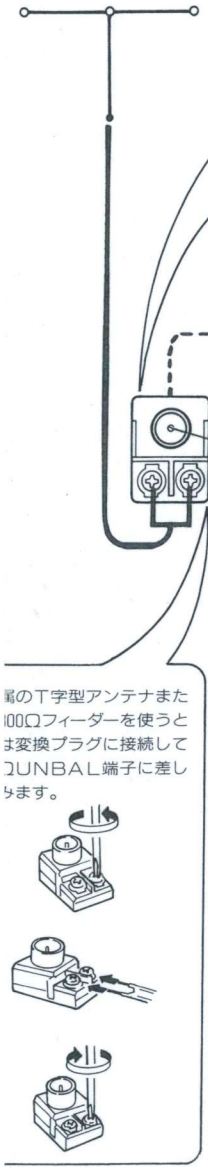
低歪率・高SN比・高セパレーション・妨害排除

■デジタル・ダイレクト・デコーダーTypeIII。

■PLL検波回路を採用することにより，従来のTypeIIの回路を大幅に簡略化。デジタル信号を最大級に活用した高セパレーションと優れた妨害排除特性はそのまま，さらに高SN比・低歪率を達成。

接続

付属のT字型フィーダーアンテナ

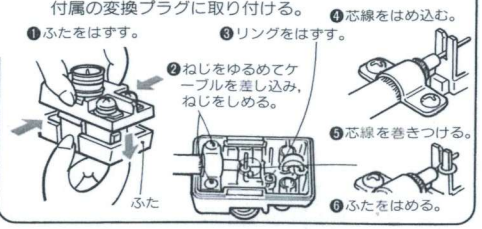


属のT字型アンテナまた
300Ωフィーダーを使うと
は変換プラグに接続して
のUNBAL端子に差し
ます。

1. 同軸ケーブルを下図のように加工する。



2. 加工した同軸ケーブルを下図のように付属の変換プラグに取り付ける。



■FM屋外アンテナ

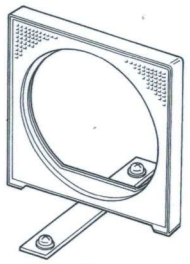


●方向のちがう放送局の電波を受信するためにアンテナ端子を2個設けました。



●FM放送の特徴はAM放送と比べて音質の良いことです。そのFM放送の特徴をいかすには，FM専用アンテナを使用してください。比較的電波の強い地域では位相差給電型アンテナをご使用ください。電波の弱い地域では，電界強度に応じて多素子アンテナの3素子，5素子，7素子のアンテナを使用してください。

■AMループアンテナ



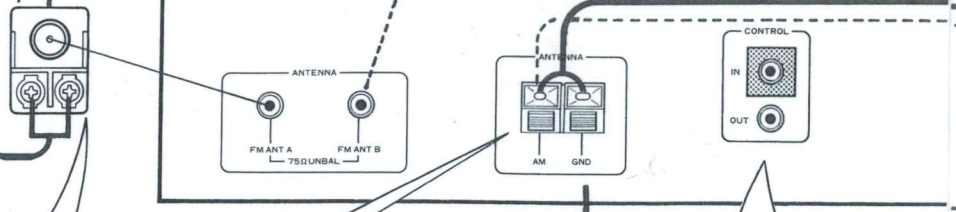
●水平面上でアンテナをセットし，電波受信が最良となる方向に向けます。
●ボンネットの上やその他の金属物，CDプレーヤー，パソコン，テレビなどのそばにアンテナを置かないで下さい。

※アンテナをつながないとAM放送を受信できません。

●AM外部アンテナ

AMループアンテナの位置や方向を変えてみても放送が良好に受信できないときは，AM室内アンテナまたはAM屋外アンテナをAM端子に接続してください。外部アンテナを接続した場合も，AMループアンテナは必ず接続しておいてください。





ループアンテナの接続
①押し下げる
②穴にコードを差し込む
③指を離す

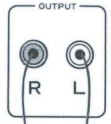


※弊社のリモートコントロール信号の入出力端子です。弊社の SR マーク付きのアンプ（C-90）などと組み合わせて，アンプに付属のリモコンユニットにより，本機の基本操作を行うことができます。詳しくはリモコンユニットの付属した製品の取扱説明書を参照してください。

■アンテナアース

接続しなくても放送は受信できますが，FM屋外アンテナを設置したときは，雷の対策としてアースをしてください。
また雑音除去のためにもなるべくアースをすることをおすすめします。
※ガス管には絶対に接続しないでください。ガスに引火することがあり危険です。

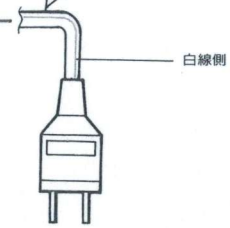




●本機の出力端子とピンプラグ付き接続コードの端子は，音質重視設計のために，光沢のないスズを使用しています。

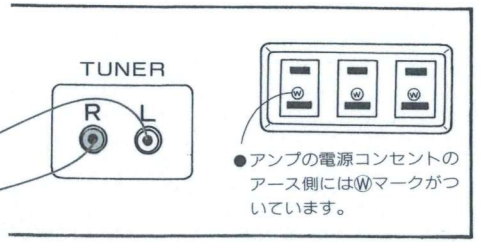
■電源コードの接続

本機は電源の極性管理がされていますので，次の方法で接続することをおすすめします。
白線側がアース側になっていますので，本機の電源コードの白線側と極性管理されたアンプのアース側，または家庭用コンセントの溝の長いほうに合わせて差し込みます。



■ピンプラグ付き接続コードの接続
●白いプラグは白い端子(L)に，赤いプラグは赤い端子(R)につなぎます。
●プラグは必ず奥まで差し込みます。

ステレオアンプ



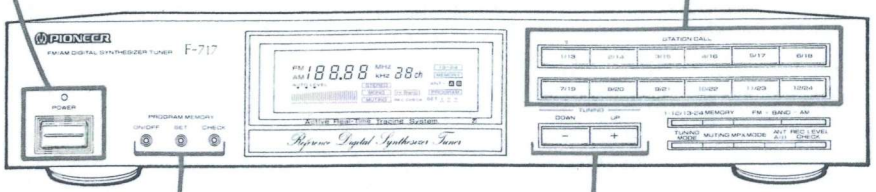
●アンプの電源コンセントのアース側にはⓌマークがついています。

名称と機能

電源スイッチ(POWER)/インジケーター

ステーションコールスイッチ (STATION CALL)

放送局をプリセットするときやプリセットした放送を受信するのに使います。



プログラムメモリースイッチ (PROGRAM MEMORY)

留守録音時に使用すると便利です。

ON OFF:スイッチをONにしておくと,電源がOFF→ONするごとに順に3つのメモリーが呼び出されます。

SET :プログラムメモリーを設定するときに押します。

CHECK :プログラムメモリーの内容を確認するとき押します。

※プログラムメモリースイッチの使いかたは14〜15ページ参照。

チューニングスイッチ (TUNING UP/DOWN)

希望の放送局に合わせるときに押します。表示している周波数より高い周波数の放送局を受信したいときは,UP(+)を押します。表示周波数より低い周波数の放送局を受信したいときは,DOWN(−)を押します。

オペレーションディスプレイ

●メモリースイッチ(MEMORY)・ミューティングスイッチ(MUTING)・プログラムメモリースイッチ(PROGRAM)は,それぞれのスイッチをONにすると,インジケーターが点灯します。

チューニングモードスイッチを押してAUTO1〜3を選ぶと,シグナルメーター上にオートチューニングできるレベルを▼マークで表示します。

放送がSTEREOのとき点灯します。

ステーションコールスイッチを押したときスイッチのチャンネルを表示します。

ステーションコールスイッチの選択動作を13-24にすると点灯します。

受信バンドと周波数を表示します。

プログラムメモリーをセットすると点灯します。



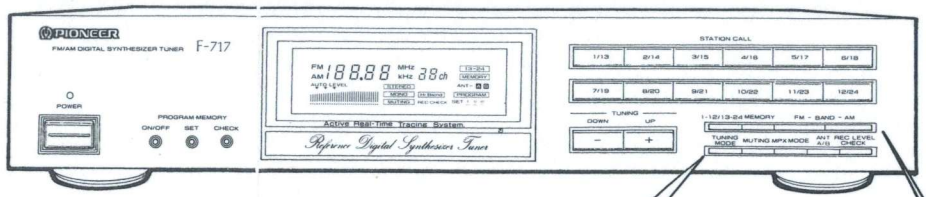
マルチプレックスモードスイッチをHi Blendにすると点灯します。

シグナルメーター
受信した信号の強さを表示します。

録音(レコ)レベルスイッチをONにすると点滅します。

マルチプレックスモードスイッチをMONOにすると点灯します。

FMバンドで選択しているANT端子を表示します。



チューニングスイッチ (TUNING MODE)

チューニングをオートでするかマニュアルでするかを選択します。
スイッチを押すごとに次のように変化します。

- **MANUAL**：TUNING UP/DOWNスイッチを押すごとに1ステップずつ変化します。また，UP/DOWNスイッチを押し続けると連続して変化します。（AUTO LEVELインジケーター消灯）
- **AUTO 1**（▼　）：TUNING UP/DOWNスイッチを一度押すと自動的に局のあるところで停止します。（電波が非常に弱いときは停止しません。）このような場合はMANUALで受信してください。（AUTO LEVELインジケーター点灯）
- **AUTO 2**（　▼　）：電波の強さが中程度以上の局のところで停止します。（AUTO LEVELインジケーター点灯）
- **AUTO 3**（　　▼）：電波の強い局でのみ停止します。（AUTO LEVELインジケーター点灯）

アンテナ切換 (ANT A/B) スイッチ

FM ANT A端子とB端子に接続した外部アンテナの選択をします。
※このスイッチの状態はステーションメモリーに放送局ごとにメモリーされます。

ステーションコール切換スイッチ (1-12/13-24)

ステーションコールスイッチの選択動作を，1-12 chまでと13-24chまでに切り換えます。
13-24chを選択したときは 13-24 インジケーターが点灯します。

バンド切換スイッチ (BAND)

FM：FM放送を受信するときに押します。
AM：AM放送を受信するときに押します。





ミューティングスイッチ (MUTING)

ON（MUTING インジケーター点灯）にすると，FM放送の局間ノイズを除去します。通常はONにしておきます。遠い放送局や電波の弱い地域などでは入力信号が弱く，ミューティング回路が働いて希望の放送局が受信できないことがあります。
このようなときは，スイッチをOFFにして希望の放送局を選局してください。
なお，AM放送受信のときは，このスイッチは無関係です。
※このスイッチの状態はステーションメモリーに放送局ごとにメモリーされます。

マルチプレックスモードスイッチ (MPX MODE)

スイッチを押すごとに次のように変化します。

- **STEREO**：FMステレオ放送をきくとき（通常はこの位置にします。）STEREO インジケーター点灯。MPX MODEがHi Blendであっても，ステレオインジケーターは，放送がステレオであれば点灯します。
- **MONO**：ステレオ放送を強制的にモノラルにします。MONO インジケーター点灯。
- **Hi Blend**：きいているステレオ放送にノイズが入っているとき高域がブレンドされききやすくなります。Hi Blend インジケーター点灯。

※このスイッチの状態はステーションメモリーに放送局ごとにメモリーされます。

録音レベルチェックスイッチ (REC LEVEL CHECK)

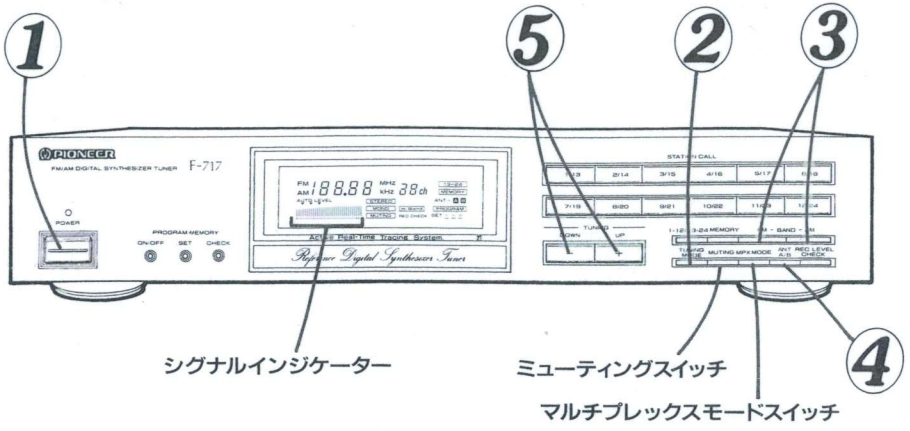
FM放送を録音するとき，テープデッキの録音レベルを設定するのに使います。
スイッチを押してON（録音レベルチェックインジケーター点滅）にするとFM放送録音用基準レベル信号（周波数：約330Hz，レベル　FM50%変調相当）が連続してOUTPUT端子から出ます。カセットデッキのレベルメーターを−2dBくらいに合わせると適正レベルで録音できます。なお，録音レベルの設定が終わったら必ずこのスイッチを押してOFF（録音レベルチェックインジケーター消灯）にしてください。

メモリースイッチ (MEMORY)

放送局をプリセットするときに押します。
押すと MEMORY インジケーターがおよそ5秒間点灯します。その間にステーションコールスイッチを押してメモリーします。

操作

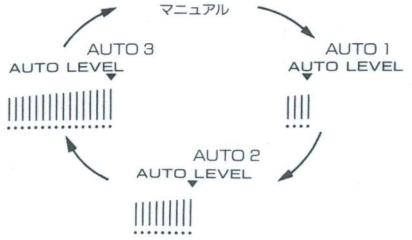
FM/AM放送をきく



■数字の順に操作してください。

1 **電源スイッチをONにする**

2 **チューニングモードスイッチでマニュアルかAUTOのレベルを選ぶ**



AUTOチューニングのとき▼印が示すシグナルインジケーター以下のレベルの信号では停止しません。
受信する放送局の電波の強弱に合わせて選んでください。

3 **バンド切換スイッチでFMバンドかAMバンドを選ぶ**

●FMバンドのとき"FM"と"MHz"が点灯し，AMバンドのときは"AM"と"kHz"が点灯します。

4 **FM放送のときアンテナ切換スイッチで受信する局に向いているアンテナAまたはBを選ぶ**

（使用しているアンテナが一つのときは接続している端子を選びます。）

5 **チューニングUP/DOWNスイッチのUP(+)かDOWN(−)を押す**

●**AUTOチューニング**
一度押すと自動的に放送のある周波数を探し停止します。別の放送に移るにはもう一度押します。
自動的に止まらない場合はAUTOレベルを変えてみてください。それでもだめな場合はMANUALにしてください。

●**MANUALチューニング**
一度押すごとに1ステップ(FM:0.1MHz,AM:9kHz)ずつ変化します。押し続けると連続して変化します。

6 同一バンド内の別の放送を受信するときは、⑤の操作をくり返す。また，他のバンドを放送を受信するときは，③⑤の操作をくり返す。

遠くのFM放送局を受信する場合

■ミューティングスイッチ
局間ノイズを除去するため，通常はONにして使用しますが，そのままでは弱い入力信号をカットしてしまい，希望の放送局を受信できないことがあります。遠くのFM局など弱い電波の放送を受信するときはOFFにして，チューニングモードをMANUALにして選局してください。

■マルチプレックスモードスイッチ
STEREO放送がノイズでききづらいときには，HI BLENDあるいはMONOの位置にするとききやすくなります。

シグナルインジケーター



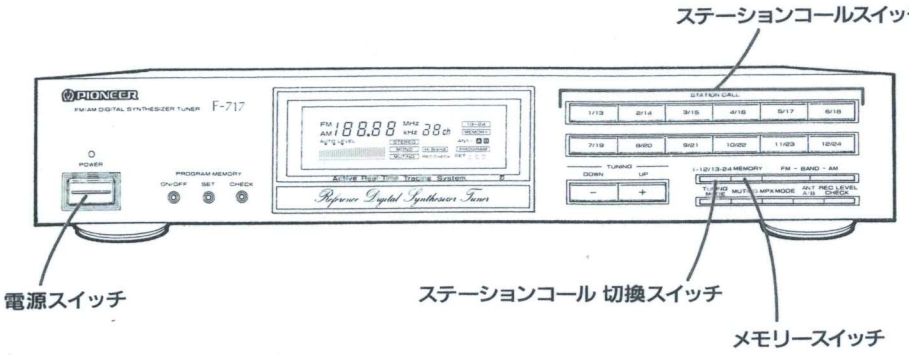
シグナルインジケーターが点灯しないときは周波数があっていても受信できません。これはアンテナ端子の入力が弱いためです。アンテナ端子がはずれていないか調べてください。アンテナが接続されていても点灯しないときは，お近くの販売店にご相談のうえ，屋外専用アンテナを接続してください。

■オートチューニングについての注意
●本機は高感度のため，ことに夜間では電波伝搬がよい微弱な海外放送局でも自動停止することがあります。都市雑音でも同様なことが考えられます。
●AM放送受信時，オート選局を使ってプリセットを行合にひんぱんに自動停止するようであれば，ループアナの向きを変えたり倒すことによって強力なローカルみオートチューニングすることができます。プリセッはループアンテナを最良の向き，位置に戻してくださ
●微弱な放送局はマニュアル選局でプリセットしてくだ

Ultimate Fidelity

FM/AM放送のプリセット選局

■あらかじめプリセットメモリーしておいた放送局をワンタッチで正確に呼びだすことができます。



プリセットメモリーの方法

■数字の順に操作してください。

1. "FM/AM放送をきく❶～❺"の操作を行い**希望の放送局**を**チューニング**する
2. **メモリースイッチ**を**押す**

   MEMORY ←およそ5秒間点灯

   ●メモリーインジケーターが点灯している間のみメモリーできます。プリセット操作中に消灯したときはもう一度押してください。
   点灯中にこのスイッチをもう一度押すと，メモリー機能が解除されます。
3. **ステーションコール切換スイッチ**で**1-12**か**13-24**を**選ぶ**
4. メモリーインジケーターが点灯中に**ステーションコールスイッチ**を**押す**

   ●メモリーされたステーションコールスイッチのチャンネルがディスプレイに表示されメモリーインジケーターが消灯し，プリセットメモリーが完了します。

   ※マルチプレックスモードスイッチで選択しているモード（STEREO, Hi Blend, MONO）とミューティングスイッチの状態（ON, OFF）アンテナ切換スイッチのA，B切り換えも同時にメモリーします。

プリセットメモリーでの選局

■数字の順に操作してください。

1. **電源スイッチ**を**ON**にする
2. **ステーションコール切換スイッチ**で**1-12**か**13-24**を**選ぶ**
3. ききたい放送局の**ステーションコールスイッチ**を**押す**

プリセットの注意

●長期間使用しないときは電源コードを抜いてください。なお，電源をOFFにしたり電源コードを抜いた場合でも，バックアップコンデンサにより電力を供給していますのでおよそ1か月でしたらプリセットした放送局は消去されません。
●プリセットした放送局が消えてしまったらもう一度プリセットしてください。

ラストワンメモリー

●電源が切れている状態から電源ONにすると，電源をOFFにする前にきいていた放送局を受信します。
●電源が入っている状態でバンド切換スイッチを押すと，バンドを切り換える前にそのバンドできいた放送局を受信します。
※プログラムメモリースイッチがONのときに，電源をOFF→ONにすると，プログラムメモリーに入力してある放送局を受信します。



音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないよう窓を閉めたり，ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り，快い生活環境を守りましょう。

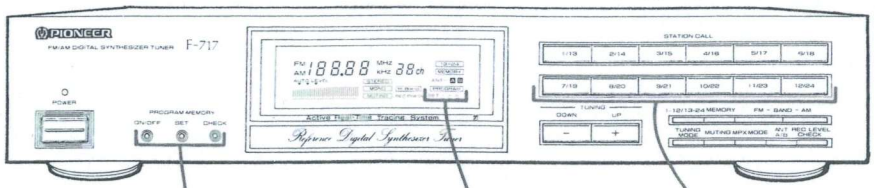
Ultimate Fidelity

プログラムメモリー

■チューナーの電源がOFF-ONするごとに，順番にメモリーした放送局を呼びだすことができます。オーディオタイマーを利用すると，セットした時刻に合わせて違う放送局を3つまで留守番録音できます。

(例)

	ON	OFF	
プログラムメモリーI	AM 9:00	AM10:00	A局
プログラムメモリーII	AM10:30	AM11:30	B局
プログラムメモリーIII	PM 1:30	PM 3:30	C局



プログラム メモリー スイッチ　　プログラム メモリー ディスプレー部　　ステーションコール スイッチ

プログラムメモリーの方法

〈例〉
6ch，8ch，24chにプリセットされている放送局をプログラムI・II・IIIにそれぞれプログラム・モード・メモリーする場合

1 プログラムメモリーON/OFFキーをONにする

ON/OFF → PROGRAM　←点灯

2 SETキーを押す

SET → PROGRAM
SET _　←アンダーバー表示

3 プログラムIにメモリーしたい局のステーションコールスイッチを押す

6チャンネル → 6/18 → PROGRAM
SET I _　←アンダーバー移動

4 プログラムIIにメモリーしたい局のステーションコールスイッチを押す

8チャンネル → 8/20 → PROGRAM
SET I II _

5 プログラムIIIにメモリーしたい局のステーションコールスイッチを押す

ステーションコール切換キーで13-24を選択して
24チャンネル → 12/24 → PROGRAM
I II III

※アンダーバーの位置で，次に電源がOFF→ONしたときに呼び出すプログラムを示します。

6 プログラム完了

※すぐにタイマーをセットしないときは，プログラムメモリーのON／OFFキーをOFFにしておきます。

プログラムメモリーによる受信

1 プログラムモードメモリーON/OFFキーをONにする

ON/OFF → PROGRAM
I II III

※PROGRAM表示が点灯し，セットしたプログラムの内容を示します。

2 オーディオタイマーをセットする

プログラムメモリーの動作

オーディオタイマーで電源がOFFからONになるとプログラムIを受信します。

※アンダーバーがIIに移動して，次にIIを再生することを示します。
PROGRAM
I II III

⇩

以後，電源がOFF→ONするごとにIII→I→II→IIIとくり返し呼び出します。
PROGRAM表示が消えているときに電源がOFF→ONした場合には，OFFする前に受信していた局に戻ります。

〈注意〉 PROGRAM表示点灯中にSETキーを押すと以前にセットされたプログラムメモリーはクリアーされます。

プログラムを1つまたは2つメモリーす

1 〈例〉2つメモリーするとき

プログラムモードメモリーの方法①～④にしたがってプログラムI・IIに希望の放送局をメモリーする

2 SETキーを押す

SET → PROGRAM
I II

PROGRAMキーがONの状態で，電源がOFF→ONするごとにI→II→I→IIをくり返し呼び出します。

※SETキーを押したあと何もせずにもう一度セットキーを押すと，再セットモードになります。
ステーションコールスイッチとステーション切換スイッチ以外のキーを押すと，I・IIはメモリーされIIIはメモリーできなくなります。

メモリー内容を確認するとき

CHECKキーを押す

プログラムされている局を順に2秒ずつ受信し，一周するとチェックを終了します。
チェック中はPROGRAM表示が点滅します。

CHECK → PROGRAM

I-2秒→II-2秒→III-2秒→終了

Ultimate Fidelity

故障?と思うまえに

故障かな?……と思ったら，症状に合わせて下の項目をチェックしてみてください。下の項目をチェックしてもなおらない場合は，アフターサービスの項をお読みのうえ，修理を依頼してください。

症　状	考えられる原因	処　置
音が出ない	●接続コードの接続がまちがっている。	●確実にアンプのTUNER端子へ差し込む。
	●アンテナが接続されていない。	●確実に端子につなぐ。
ステーションコールスイッチで選局できない	●電源コードを1か月以上抜いていたか，電源スイッチを1か月以上ONしていない。	●メモリーが消去しているので放送局をメモリーしなおす。
雑音が多い（「ジー」,「ザーザー」という雑音が多い）	●放送局の周波数に合っていない。	●チューニングスイッチで正しい周波数にする。
	●アンテナが接続されていない。	●確実にアンテナをつなぐ。
	FMの場合	
	●アンテナA/B切換スイッチがアンテナに合っていない。	●受信する局の電波の方向に合ったアンテナに切り換える。
	●付属のT字型アンテナがたばねたままになっている，またはアンテナの向きが悪い。	●両端をピンと張り，よくきこえる方向に向けて固定する。
	●放送局の電波が弱い	●付属のT字型アンテナをFM専用の外部アンテナに交換する。 ●FM MPXモードスイッチをMONOにする（このときはモノラル再生となる）。
	●他の機器の雑音が入る（特に自動車が通ると雑音が入る）またはマルチパスが発生している。（マルチパスとは，放送局の電波がアンテナに直接入るものと，山や高い建物に反射して入るものが互いに影響し合い，音がひずんだり，雑音が出る現象です。）	●アンテナの取り付け位置を変えてみる。また，外部アンテナを使用しているときはアンテナの設置場所を道路から離したり，接続ケーブルを75Ωの同軸ケーブルに変える。
	AMの場合	
	●付属のAMループアンテナの向きが悪い	●アンテナの方向を変えて，よくきこえる位置にする。
	●付属のAMループアンテナが本機と接触している。	●ループアンテナを本体からなるべく離す。
	●放送局の電波が弱い。	●AM外部アンテナを設置し，接続する。またアース線をつなぐ。
	●他の機器（螢光燈やモーターを使っている電気製品など）の雑音が入る。	●雑音を発生させる機器の使用をやめる，または遠ざける。
放送がステレオなのに，ステレオにならない。	●電波が弱く，アンテナの入力が不足している。	●多素子のFM専用アンテナに交換する。
	●放送周波数に正しく合っていない。	●正しい周波数に合わせる。
	●FM MPXモードスイッチがMONOになっている。	●スイッチをSTEREOにする。

アフターサービス

■保証書(別に添付してあります。)

保証書は，必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて販売店から受け取っていただき，内容をよくお読みのうえ，たいせつに保管してください。

●保証期間はご購入日から1年間です。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

■アフターサービス等についておわかりにならないとき

本機に関するご質問，ご相談は最寄りのパイオニアインフォメーションセンター(IC)をご利用ください。ICの所在地，電話番号は付属のサービスネットワークをご覧ください。

■修理を依頼されるとき

もう一度本書をよくお読みいただき，ご確認のうえなお異常のあるときには，必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

●保証期間中の修理

万一，故障が生じたときは，保証書に記載されている当社規定に基づき修理致します。お近くのパイオニアサービスター，サービスステーションにご連絡ください。またはお の販売店にご連絡ください。保証書の規定に従って修理います。

連絡していただきたい内容

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・型番・ご購入日(製品名:F-717)
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物,公園など)

●保証期間が過ぎているときの修理

最寄りのパイオニアサービスセンター，サービスステーシまたはお求めの販売店にご相談ください。修理すれば使用る製品については，ご希望により有料で修理いたします。

安全にお使いいただくために

■国内でのみご使用ください

本機は日本国内専用仕様です。使用電源は，交流(AC)100Vです。大型クーラー用などの200Vコンセントには接続しないでください。発火を起こすなどたいへん危険です。また船舶などの直流(DC)電源にも使用できません。

■容量以上の接続はやめて

AC OUTLET(電源コンセント）を備えている機器では，他のステレオ機器の電源コードを接続できます。消費電力がパネルに表示された容量を超える電気機器は接続しないでください。機器の故障や火災のおそれがあります。また，テレビなど電源が入ったときに大電流が流れる機器は，テレビを接続できる設計となっている機器以外には接続できません。

■本機に異常が発生したときは

ご使用中に本機から異常な音やにおいがしたときは，すぐに電源スイッチを切り，使用をやめてください。必ず電源コードをコンセントから抜き，パイオニアサービスセンター，サービスステーションまたはお買い上げの販売店にご連絡のうえ，点検を受けてください。

■電源コードを傷つけないように

電源コードの抜き差しは電源プラグを持って行なってください。コードを引っぱったり，ぬれた手で取り扱うと，ショートや感電のおそれがあります。電源コードを本体や家具などの下に敷いたり物にはさんだりしないでください。また他のコードとつないで結び目を作ったり，往来の激しい場所に放置しないでください。コードを損傷させ，感電や火災のおそれがあります。

■分解しないでください

本機の内部には高電圧がかかっているところがあります。キャビットをあけての内部点検や改造は感電のおそれがあります。お客が改造を加えた場合の性能の劣化や故障については，弊社では保いたしません。

■高温･多湿を避けて,風通しのよい場所へ

直射日光のあたる所やストーブなどの暖房器具のそばに置かないください。キャビネットや内部部品に悪影響を与えます。また，気やほこりの多い場所へ置くと故障や事故の原因になります。(調理台のそばなど,油煙,蒸気,熱が当たる場所も避けてくださ本機は重量がありますので不安定な台の上などに置かないでくたい。地震などのとき危険です。

■水や異物はきらい

機器の通風孔や開口部などからヘアピンや釘，硬貨などの金属製ものや紙，マッチなどの燃えやすいものを差し込んだり落としたしないでください。故障や火災，感電のおそれがあります。機器に異物や水が入ったときは，パイオニアサービスセンター，サースステーション，またはお買い上げの販売店にご連絡のうえ，点を受けてください。

■長い期間使用しないときは

旅行や外出などで留守にされる場合は，安全のために電源スイッを切り，電源コードをコンセントから抜いてください。不慮の事で火災をひき起こすおそれがあります。

仕様

FMチューナー部

受信周波数……76～90MHz
実用感度……モノラル：9.3dBf(0.8μV/75Ω)
SN比……モノラル：100dB
ステレオ：92dB
高調波歪率……モノラル：0.008%(100Hz)
0.005%((1kHz)
0.01%(10kHz)
ステレオ：0.01%(100Hz)
0.008%(1kHz)
0.05%(10kHz)
キャプチュアレシオ……0.8dB
実効選択度……90dB(400kHz)
60dB(300kHz)
ステレオセパレーション……1kHz：70dB
20Hz～10kHz：54dB
周波数特性……20Hz～15kHz ±2dB
イメージ妨害比……80dB
IF妨害比……100dB
AM抑圧比……70dB
スプリアス妨害比……80dB
サブキャリア抑圧比……65dB
ミューティング動作レベル……25.2dBf(5μV/75Ω)
アンテナ……75Ω不平衡型
出力端子(出力レベル/出力インピーダンス)
FM(100%変調)……650mV/900Ω

●上記の数値は新IHF法による測定です。

AMチューナー部

受信周波数……522～1629kHz
実用感度(付属ループアンテナ)……150μV/m
選択度……±9kHz：40dB
SN比……50dB
イメージ妨害比……40dB
IF妨害比……60dB
アンテナ……ループアンテナ(付属)
出力端子(出力レベル/出力インピーダンス)
AM(30%変調)……150mV/900Ω

電源部・その他

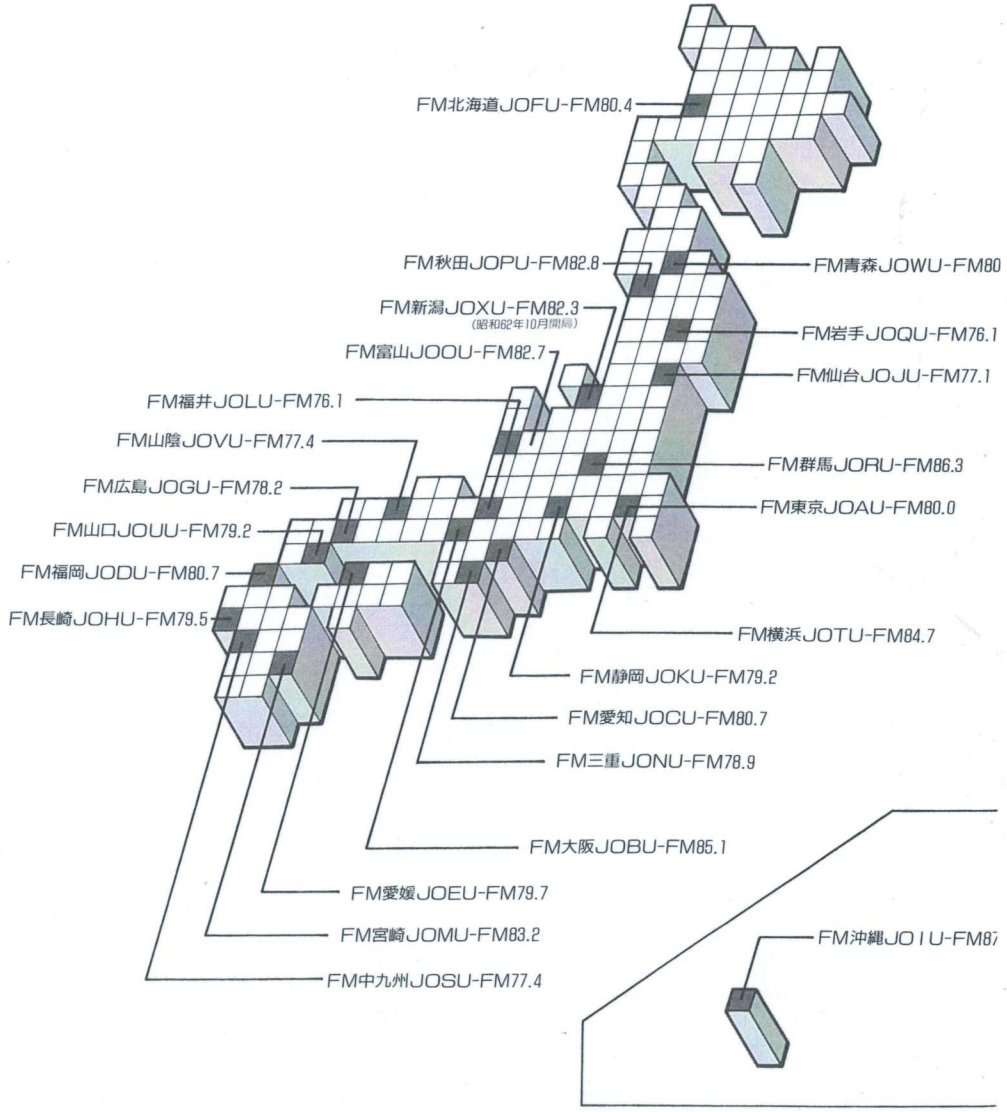
電源電圧……AC100V, 50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)……18W
外形寸法……420×84×316mm
重量……4.6kg

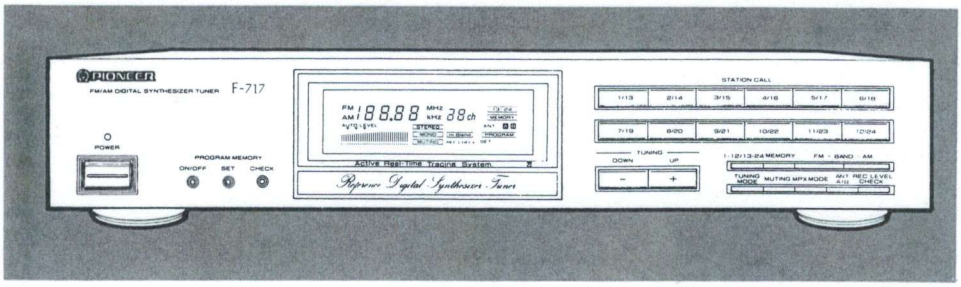
付属品

FM T字型アンテナ……1
AMループアンテナ(大型)……1
ピンプラグ付き接続コード……1
リモートコントロールコード……1
変換プラグ……1
サービスネットワーク一覧……1
取扱説明書……1
保証書……1

●上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

FM民放ステーションマップ





FM/AM DIGITAL SYNTHESIZER TUNER F-717

© 1987 パイオニア株式会社 禁無断転載
〈87G00F8E01〉

パイオニア株式会社 〒153 東京都目黒区目黒1丁目4番1号
〈ARA1037-A〉